

第3回 共同輸配送促進に向けたマッチングの仕組みに関する検討会 議事概要

1 日時

平成27年3月23日(月)13:00～15:00

2 場所

霞が関ナレッジスクエア

3 議事概要

1. 事務局より、試行の結果、今後の対応について資料を説明。

2. 委員からは全体を通じ、以下のような発言があった。

○今回のシステムの利活用の評価(マッチング件数)は第1段階であり、今後、運送事業者の積載率や実車率の向上に繋げ、そしてCO₂排出量の削減を達成することが本事業の最終目的である。

○マッチングシステムを利活用する上で、参加企業が適正に情報を取り扱い、共同輸配送の可能性を検討することが必要である。

○本試行の結果から、荷主が登録する情報は物流事業者にとって非常に貴重な存在であるということが分かる。荷主が情報を入れ、物流事業者が見てマッチングを行うというモデルによりマッチングを拡大させられる可能性があるが、荷主間のマッチングについてはさらなる検証が必要である。

○来年度システムを改修する際には、常にマッチングの方法に係わる他の案がないか考え、より良いものがあれば取り込んでいく拡張性のある方針で取り組んで頂きたい。

○荷主と物流事業者の区分について、もし現状のままとするのであれば、明確な境界線を引くことは難しい旨の注意書きが必要である。なお、結果として物流事業者の立場での運用となった荷主企業については、集計・分析の見直しをした方が良い。

○来年度は早めに始動し、十分な試行期間と参加企業数によりマッチングのチャンスを増やす方向で進めたい。参加企業と運営組織がWinWinの関係になり、ぜひ参加したいという企業が増えるようにしていきたい。

以上
(文責 事務局)